

第9回丹波市地域資源活用懇話会
〔大阪・関西万博〕丹波市活性化推進委員会 議事録

1. 日時 令和5年7月3日（月） 15時00分～
2. 場所 春日住民センター大会議室
3. 出席者

○懇親会委員（9名）

- 1号委員 関 美絵子
- 2号委員 竹内 真子 鴻谷 佳彦
- 3号委員 荻野 祐一
- 4号委員 田辺 真人 中野 浩明 大木 玲子
- 5号委員 濱田 亮光
- 6号委員 中井 昌彦

○事務局

4. 協議事項

(1) 大阪・関西万博を見据えた丹波市の観光振興事業（案）について

5. 開会

事務局：定刻になりましたので、ただ今から「大阪・関西万博」丹波市活性化推進委員会を始めさせていただきます。それでは次第に沿って進めさせていただきます。最初に会長挨拶をお願いいたします。

6. 会長あいさつ

～田辺会長挨拶～

7. 協議事項

田辺会長：それでは、(1) 大阪・関西万博を見据えた丹波市の観光振興事業（案）について事務局から説明をお願いいたします。

事務局：～資料について詳細説明～

それでは資料に基づき大阪・関西万博を見据えた丹波市の観光振興事業（案）について説明させていただきます。今回の資料は前回提案させて頂いたものに少し追加及び修正を加えております。その部分を赤字で表示してましてそこを中心に説明させていただきます。

2つ目の大阪市内でのPRの候補場所について、前回は大阪ステーションシティとしていましたが、立ち寄って頂けて物販も可能な場所として大阪駅周辺の百貨店催事場やグランフロントなども候補地として考えていきます。

3つ目の丹波市のPRとして、色々な媒体でのPRというところで鉄道や

バス、インスタや、万博ポータルサイトへの広告やWeb広告を考えていきます。

4つ目のTAMBAミュージアムの開催場所については、前回はたんば黎明館だけとしていましたが、意見を頂きました陣屋跡などの活用を検討します。また、国内の方は車で来訪される方が多いことから道の駅丹波おばあちゃんの里内の観光情報センターでの情報発信の強化を検討したいと思います。

5つ目の丹波布周遊コイン事業ですが、前回は丹波布周遊パスポートを2,000円で販売し、加盟店で1回提示するたびに300円程度のインセンティブをとということでしたが、景品表示法の関係で元の金額の2割、400円までしか還元できないことからインセンティブが弱い。このことから丹波布自体をノベルティとしてお渡しする。そこに地域通貨としてたんばコインをQRコードでチャージし、市内のたんばコイン利用可能施設で使っていただくように検討していきたいと思います。金額については今後調整していきますが、2,000円相当の丹波布のノベルティにたんばコイン5,000円分を付けて2,000個配布するように考えています。

6つ目のデジタルマップについては、前回はStrolyの利用としていましたが、Platinumapsも同じようなデジタルマップですのでどちらかで検討したいと思います。また、運用方法につきましては案ではありますが、観光協会に市の補助事業としてデジタルマップを色々なところで活用してもらうのが一番良いかと思っています。

8つ目のバス旅行促進事業は、既に補助金として運用しているものですが、万博後の令和8年度まで継続し万博開催年度については、補助金額を上乗せすることも検討したいと思います。

9つ目のバスによる周遊促進については、今現在、丹波市観光協会が山南と青垣地域でモニターツアーを実施し今年度に旅行商品化に向けて取り組んで頂いていますが、令和6年度にその他の残る4地域も実施し、全地域の旅行商品を造成したものをツアーとして販売していくことを考えています。

田辺会長：説明を受けましたが、今回は箇条書きのようにまとめられていますが、その中に前回の意見を盛り込んで頂いているのでしょうか。

事務局：前回の意見の中で、何をPRするかということがあったと思います。有機農業、丹波市にしかない観光資源などをPRして誘客するべきとご意見があったかと思っています。具体的な内容を書いてはいませんが、万博会場や大阪市内で丹波市にしかないものを中心にPRしていくことを考えています。

田辺会長：それは盛り込んで頂けるということですね。

事務局：はい。それと、丹波布周遊パスポートが前回 500 枚が少ないというご意見を頂きましたので、丹波布周遊コインとして予算規模も考えながらになりますが、5,000 円分を 2,000 個配布で考えています。

頂いたご意見の中でE-Bikeとレンタサイクルについては、現在、観光協会のかいばら観光案内所でレンタサイクル4台保有されていますが、現在、大体週1回の利用と聞いています。実際の利用としては、例えば柏原駅とか谷川駅、下滝駅に置いて恐竜化石の発見現場まで乗るなどの利用が考えられますが、この資料には書いていません。

田辺会長：具体的な内容については、前回のご意見を盛り込んでもらえるということですので、それを踏まえてご質問、ご意見はありますか。

委員：TAMBAミュージアムですが、たんば黎明館だけでなく面的ゾーンということですが、来場者の目標人数は想定されているのでしょうか。それと来場者のターゲットは誰になるのでしょうか。

事務局：TAMBAミュージアムの具体的な時期や内容についてまだ詰めていませんので、目標人数について想定ができていません。

委員：時期については長期間でしたね。

事務局：令和6年度から令和7年度で取り組むとしていますが、実際の時期は令和6年度は秋に、令和7年度は万博期間のどこかでと思っています。

田辺会長：前回の議論で大阪・関西万博を一つのきっかけとして、これまでやっていなかったことをやってみよう。もしこれが好評であれば継続したら良いのではというところで、たんば黎明館を利用したミュージアムが結構来場され反応が良ければ継続、常設していけば良いので大事なのは中身です。

関副会長：丹波市でしかできない体験の掘り起こしのようなことはお考えでしょうか。今あるものをPRするのか。新たに掘り起こししようとしているのか。前回は言いましたが、農業者代表として農業体験をいかにリピーターを増やし、農業体験した後にお風呂入ったり、お土産物を買ったり、泊まったりして、段々と丹波という土地が好きになっていってくれる人が多いという感覚がある。兵庫フィールドパビリオンとはちょっと違うかもですが、私たちの活動場所がパビリオンとなるような体験の掘り起こしをしてもらうようなことがあっても良いのではないか。

事務局：万博を見据えたそこでしかできない体験の掘り起こしですが、県の事業としてフィールドパビリオンというのがあって、丹波市では7つ、県民局以外ですと4団体が出ています。丹波市としましても他に出来るところがないかというところで、例えば青垣のFORESTDOORでの体験や宿泊や古民家の宿泊と町中観光とホテルを組み合わせられないか丹波市から業者に投げかけをしている。掘り起こしで全くないところから作り上げてい

くのは継続性も考えないといけないので難しいところがある。今ある観光資源を結び付けていけないか業者に投げかけているという状況です。

田辺会長：先ほどのお二人の意見を聞いていて思ったのが、副会長が言われたのは、何か探さないといけないのではという意見で、事務局が言われたのは、今こんなものがある。新たに作るのは難しいという。これよく考えないといけないのは、観光はよく中国で言われる語源の中で、観（かん）は観（み）る。光（こう）は光（ひかり）です。間に国という文字が省略されていますが、「観国光」つまり元々は国の光を観ると。土地のお宝を観るとというのが観光の元々の語源です。事務局は、お宝はこれだけですよという説明ですが、お宝は見つけてから売らないといけない。

例えば市役所の中で年寄りはいらないので若いスタッフで、これが大事だと思うものを挙げるようなグループを作ってはどうか。時間が限られている。結果は2年後に出さないといけませんので、例えば半年間の区切りの中で、市役所の若いスタッフの中から丹波で新しい宝を見つけ隊のようなものを作ってそれを観光事業に発展していく。今作るのは無理ですではダメです。事務局の若手さんはどう思いますか。

事務局：私は元々民間の旅行業者で働いていまして、令和4年に丹波市役所に入所しましたので、感覚としてはまだ民間の感覚があると思っています。それに加えて長い間丹波市外で働いていましたのでUターンという形で帰ってきたような感じです。本当に市内に住んでいる人にとっては何て事のない、青垣の原風景の景色であったり、仕事に見える何気ない景色に感動していました。個人的にもすぐに新しいものを見つける。ゼロから作るのは難しいと思うのですが、やはり先を見据えてやらないといけないことと思っています。

田辺会長：こういう人を活かさないといけないと思います。主にどんなところでお仕事をされてきたんでしょうか。

事務局：地域は大阪で本社は東京にあるJTBです。

田辺会長：そうしたら、メジャーなアイデアもあるしマイナーな丹波のこともご存じで、是非、課長さんの采配でリーダーにしてグループを作りましょう。

事務局：磨き上げるのも一つの方法で、まったく探さないということではない。若手からのアイデアを聞いていきたいと思います。

田辺会長：他に何かご意見はありませんか。

委員：農業体験ですが、丹波市観光協会では把握している中で色々な体験がありますが、はっきり言って農業体験はあまりありません。しかし淡路の方をみますと、淡路は学生さんを対象にした農業体験がすごく、もう農業体験をする場所が無いような状況になっている話も聞いています。単年度だけ

でなくて将来的に丹波の農業が外に向けて発信して、それが観光資源の一つとして色んなお客さんに来てもらえるように、そこで交流が生まれていけばと思います。

関副会長：例えば農家の中でも体験をしてほしい、来て欲しいというところがある。それをどうやって誰に発信したらいいかわからない。逆に発信しても農繁期に電話されても対応がしにくいことがあるので繋ぐ人が欲しい。移住してこられて農業をされている方は手伝っていただけるとありがたいが、発信や調整することに悩まれている方が多い。

委員：体験を受け入れる方が、何名まで受け入れられるか。地域として受けられるとしたらどれくらいまで受けられますか。農泊や民泊などの条件など決められて教育委員会に相談されたら、学校関係で体験実習として声をかけられたら面白いのではないかと思う。

田辺会長：この件は前回出ていましたね。個々の農家でしたいけども、どう発信したらいいかわからないし、どれだけ来られてもということで、まとめることを出来たらいいというところで、恐らく教育委員会はできないと思います。学校は教室の中で手一杯です。むしろ学校でいうと大学生は直接結びつきませんのでせいぜい高校生まで。一つは各農家で特色と許容人数と、宿泊が出来るなら宿泊人数といったことで、どこかグループを作ってその条件を観光協会に伝えて観光で発信する時に農業体験を入れてもらったら良い。

関副会長：やはり集約していただけるようなところがあればいい。

田辺会長：他にどうですか。

委員：8番目の現行のバス旅行補助金というところで、この期間だけ金額をアップするのは難しいですか。

事務局：今現在の補助金は日帰り 35,000 円、宿泊 45,000 円の補助金ですが、インセンティブというところで万博とその前後の期間について補助金を増額することの検討をしていきたいと思います。

委員：おそらく万博期間中のバス代金は値上がりするので、こういった施策があったらアクションがあると思います。

事務局：令和6年度から値上がりするのでしょうか。

委員：それは令和7年8年になると思います。

田辺会長：他にどうですか。

委員：バスもそうですが、これは毎年されているのでしたら、元々丹波市に来た人が来るのか、新規の人が来るのか。外国人を呼ぶのか。体験したい人が来るのか分けておかないと、何のためにやっているのか分かならないような感じがする。宣伝するところとかがイメージできない。こういうお客さんのために丹波布周遊コインをするだとか、デジタルマップも来たことのない

い方にするのか、来たことがある人に対してやるのか。例えば、サステイナブルがテーマとなっているのであれば、その研究とかフックがかかっているのなら体験や農業体験だと嬉しかったりしますが、その点が曖昧になっている。万博ということで便乗してするというのもあるが、その辺をきっちり分けてしないと結局ぼやけて何のためにするものなのかといことになる。

ターゲットをきちんと決めて政策を進めるか考えずにするか。一つ一つの政策は良いことだと思っていますので、例えばバスの補助金ですが、バス会社は結構早くバス使う予定をされますが、こういった補助金があれば旅行業者は飛びついてくると思いますので、そうなると一般の方に言うのではなくて旅行会社に言うべきとか、そういうやり方でいかないといけないと思いました。

田辺会長：バスの補助金は何件までとかの数量制限はあるのでしょうか。

事務局：令和4年度で30件の補助金額で110万円程度だった。予算としては200万円ほどでした。予算の範囲内にはなりますがコロナ前でしたら70件から80件ほどの実績がありましたので、万博前後の3か年については予算額を増額要求していきたいと思います。

田辺会長：デジタルマップについては、初めて来られる方のための、何回か来ている方のための、もっとディープに来たい方のためのと、3種類はできると思います。費用もそんなにかからないと思います。バスの補助については、35,000円、45,000円という補助ですが、万博中バス会社は代金を上げると思います。そうすると、旅行会社だけじゃなくて、阪神間では自立した団体が結構ありまして、セミプロのようなところがあって企画するようなどころもこの補助金は大きい。万博をきっかけに万博が終わっても補助金があるので使って来てくださいということを知らせるというやり方もある。もう一つ、日帰りと宿泊で金額が違うが、前回の委員会で丹波市には宿泊施設が十分でないということでしたが、そうすると宿泊の補助は増やさなくても良いのではないかと。日帰りでも来てもらうことを増やす方が良いのではないかと。この補助金額は世間一般の役所の差額だと思います。その相場的にやらずに丹波市の施策としてやらないといけない。極端に言えば宿泊は無しにしてもいい。その分日帰りを多く受ける方が良い。

前回の意見であったタクシーについても観光課の方でモデルコースを作るというのを具体策の中に入れていかないといけない。レンタサイクルですが谷川駅でレンタサイクルはどうか。置くなら柏原駅か黒井駅かと思えますし、バスを利用して来られたりする方には道の駅を拠点にしたレンタサイクルをしないといけないと思います。JRと協議して駅に返せるよう

に進めていくべきではないか。

委員：全体的に万博とはあまり関係なくなっているように感じます。例えばちーたんの館に行くにしても万博に来た人が丹波のちーたんの館に行きたくなって駅からのレンタサイクルだと思います。前回は言いましたが、万博の分析をしないといけない。万博に来る人はどんな人か。そこから分析して丹波にこんな魅力があって、万博に来た人と目的が合っていないと、普通の観光の話になっているように感じます。SDGsやサステナブルな取組をしているような企業の見学に来てもらうためのレンタサイクルやバス補助金でしたら分かりますが、普通の観光旅行に対しての話ではないと思っています。

田辺会長：客観的に考えて頂いて、大阪・関西万博に来た人が何割丹波に関心を持っているか。丹波市としては関西万博をきっかけにして、それを口実にして何かするためのものと思う。もしも、万博に来る人を丹波市に誘導するだけの施策だとしたら最終的に結果を報告する時に失敗としか言えなくなる。この期間に普段できないことをやってみる。効果がなければ止めて、効果があれば継続してやるということだと思います。

委員：例えば北の人が万博に行くツアーを組みました。そこで何か引っかかったら回って来ると思います。

田辺会長：秋田から大阪・関西万博に来られた人が農業体験に魅力を感じると思いますか。

委員：コウノトリ米は見たいかもしれない。

田辺会長：それは米を作っている人で、その人を呼ぶための情報提供をしないといけない。やはり秋田から万博に来られて兵庫県寄るなら姫路や神戸港へというのには対抗できない。

委員：補助金を使ってこちらに来るのであれば、例えば持続可能な農業をやっているから見たいということはある。

委員：万博を通じて関西に沢山の客さんが集まる。その中で丹波にどれだけ魅力を感じて来て頂けるか。選択されるのはお客さんなので、私たちは売り手。今までは売り手市場で来てくださりだけで良かったが、今はそんなことは言ってもらえない。お客さんが丹波に行きたいと言ってもらえるようなものを出していくというのが今話している取組だと思っています。京阪神からここまで1時間30分くらいで来て頂ける。この時間的なものは丹波市にとって大きな財産で、この時間帯の中で丹波をより一層外に向けて発信できればと思います。その中で農業体験もありますでしょうし、発信したものでお客さんが丹波に行ったら良かったなと言ってもらえるならプラスになる。来ていただいたお客さんに対価を与えるようなものを丹波が残し

ていけば、お客さんの心の中には必ずまた丹波に行ってみたいというものが増えていく。それが体験であり観光であり食でありとそういったものが複合的に含まれてお客さんの心に残る。そういったことで丹波の万博についての地域全体が、丹波市全体がその雰囲気盛り上げないと難しいのではないかと感じます。

田辺会長：丹波行ったらこんなものがあるというのは、その時に行かなくてもチラシなどで、グループでバスを使って行ったら助成があるというので良いと思います。

委員：バス旅行の助成はこのタイミングでするものではなく毎年されている事業ですね。

事務局：継続して毎年しているもので、万博期間についてももう少しインセンティブを上げるかということを検討していきたいと思っています。

委員：何年か前からこの事業を使って来られている業者があるということですね。

事務局：どちらかという新規というより毎年使われている旅行業者とか団体が多いという状況です。

田辺会長：旅行業者はこういう制度を十分に調べてはいないと思います。万博期間中に来た人を呼び込むのも一つですが、PRのチャンスですから、大阪の街中でPRができたと思います。

委員：このバス助成についてはエージェントから今年もあるのかという問い合わせがある。ありますが金額のこともありますので市の方に問合せくださいと案内しているので、この助成は続けて頂いた方が良いでしょう。

委員：私も全体的なことになりますが、他の委員さんが言われたように、やはりターゲットを誰にするかをはっきりさせないとお金が勿体ないと非常に感じる。それぞれ資料に書いてあることは方法としては良いが、例えば資料の1から3のPRや広告を誰に向けてするかということ、出来ていないのに広告するやり方なんて殆どどんな広告でもされていないとされていて、そこははっきりやっておくべき。それを決めるための委員会じゃないかと思っています、事務局が言われたように資料1と2は決まっていなことが多い。どんな形になるか、どんな条件で出来るか、分からないことが沢山ある中で、これはこの方向でやりましょうと考えるよりも、会長をはじめ委員さんが言われるように、この年には何をするかということですし、ターゲットをはっきりさせた方が良いでしょうということで、その2点を最低でも押さえてしていかないと意味があまりないように思いますし、それは前回から皆さんが言われていたことなので、内容を詰めていく前にはその話を繰り返すになりますが、ここでちゃんとしないとここで扱っている意味があまりないというか、この出てきた一覧を追認しましたというだけのことで

うなのかなと思いました。

田辺会長：皆様方同じだと思いますが、各施策なり項目に対象をどこにするかを決めていくのは必要なことだと思います。複数になってもいいが主な対象はどのような人たちか注意して書いていただくことでどうでしょうか。

事務局：ターゲットが明確にされていないことは施策を決められないこととおっしゃるとおりで、ターゲットについては、万博自体は 2,800 万人の来訪予測で、インバウンドは 300 万そうすると国内客 2,500 万人。丹波市は今インバウンドの方が少ない状況。万博向けコンテンツも海外向けがありますが、国内客が主になるのかと思います。万博に来られた国内のお客様に丹波市を PR し知って頂いて次に来ていただく誘客の一つのきっかけを PR していくというのが必要かと思っています。

田辺会長：私もそう思っていますが、直接的にそこに当てはまるかもしれませんので、その時には対象としてはっきりしていくことは必要かと思っています。

委員：確かにこの資料を見させて頂いて PR の仕方であったりどうやって周遊して頂くかの協議かと感じましたが、この会議で色々な丹波の体験があると思うので、丹波でしかできないものを盛り込むという意見が出ていますが、具体的に関西万博に向けて想定した場合に、どこまでを協議したらいいのか、意見を出したらいいのか分かりにくい。こういった意見を踏まえて業者さんに任せていくのか。その辺がどうなのかというのが、多分業者の方にこういった意見がありましたということであれば、ある程度決められたというか形が整ったものになるか。そうではなく、体験とかでしたら私たちが日常やっていることを丹波としてやっていくのか。どういう流れになるのか。

田辺会長：この場で話し合われたことが市はその施策にどう反映されるのか。原則的にここで出された意見はどうなりますか。

事務局：委員会で協議頂いた意見を踏まえて、観光課の方で整理をして予算に関わってくることもありますので予算要求していく。最初に申し上げたと思いますが、ここに出しているのは案ですので、委員様の色々な意見を踏まえ修正をしながら予算要求していくこととなりますので全てが反映できるかどうかは確約ができませんが、出来るだけ意見を尊重しながら施策の方を確定していくように思っています。

田辺会長：ここで具体的な観光ルートを作るとかいう場でもありませんし、一般的には市の審議会とかでしたらだいたい原案が通っていくものですが、この会自体、結構自由に色々なご意見を出していただいていますので、それを市役所が吸収して出来ないものは出来ませんから、出来ることをしていただくそのための色々な意見を出して頂くものと考えたら良いですかね。

そもそも私たちは、関西万博のことを論じるために集まっているのではなくて、丹波市の観光商工業のプランをどうするかを1年やってきたのが、突然目の前に関西万博が来たので、引き続き関西万博についてやろうということで両面になっている。直結して関西万博のことになってもいいし丹波市全体の観光の方向を考えるうえで活かされる意見があれば、その二重性は仕方ないと思います。

委員：万博のキックオフに丹波市の観光戦略月間とか年間とか、大きな半年、一年間というのを、ユニティプランでも観光がまちを変えろというのがあったので、その月間を丹波市観光月間にしますというみたいな戦略で万博へのPRであったり、例えばTAMBAミュージアム開催もその期間にするとか、キックオフの大きなイベントで丹波市を打ち出しやすいイベントが一つあっても面白いのではないかと思います。それに付随して周遊のレンタカープランとかタクシープランとかサイクルプランとかバスプランとか、観光の全体の中のツールとして入ってくるのかなとイメージで思っ一覧表を見ているのですが、イベントはこんなこと、ツールはこんなこと、予算が概算これくらいで、全体的に期間中にこれくらいになるというのをここで報告する必要はないと思いますが、ちょっとそこらへんが見えないと分かりづらかったと思います。企画書のようなものになっていればと思います。丹波布周遊コインもこれだけの資料では何のことかわからないので、もう少し詳しい説明があればもう少し良い意見が出来るのかなと思いました。あと前回出ていた貸切レンタカーによる周遊プランといったツアーを組んでするのは難しいと言われていましたが、コースプランでこんなところを周れますといったことのプラン紹介だけでもあると、お客さんはほとんどネットで調べて来られるので紹介してほしい。恐竜でしたらちーたんの館行って発掘現場行ってちーたんの食事を食べられますよという紹介をして、後は自分たちで選んで行ってもらうように、コースの紹介をすればお客さんは喜んでもらえるのではないかと。

この間びっくりしたのが、台湾のお客さんが喜作さんにバス2台で来られた時に、そんなコースがあるのかと思った。喜作さんにどうやってつながったのと聞いたら、直接電話があったということで、そういうのもあるのかと思って、今はネット時代だとびっくりしました。

田辺会長：今の意見もありましたが、各項目1枚ものの企画書があれば色々ご意見を出しやすいということです。観光課の方としては色々な意見が出れば役に立つだろうということとありますが、ここでは具体的な問題をどうするかではないですね。

事務局：中々決まっていないことがあり分からない部分が多くありますが、市とし

ては色々な意見を頂いてそれを取り込んでいくというところで、委員会で施策の細かいところを決めていくのは難しいと思っていますので、色々なご意見をお聞きする場としてお願いしています。そのためには本来ターゲットであるとかはっきりさせてというのがありますが、前回と今回で色々な意見を頂いておりますので、その意見を集約しながら施策につなげていきたいと思っています。

田辺会長：事務局が言われたように、前回と今回で色々な意見を出して頂いて市がこれから具体策を作っていくうえで役に立つような意見が頂けたらという認識ですね。

委員：県の方で兵庫フィールドパビリオンをやっていますが、これはSDGsに関連した体験型地域プログラムです。フィールドパビリオンはSDGs体験型プログラムですが、万博期間中は約2,800万人の方が訪れ、多くの方にPRできる機会がある。万博会場の兵庫棟や県立美術館で県下のフィールドパビリオンや観光地をPRしていく、この機会に丹波市のことをフィールドパビリオンだけでなく、広くPRして誘客につなげていくことが、後々につながっていくのかなと考えます。

例えば、丹波布周遊コイン事業でも丹波ミニ博の会場で配布ということですが、遠方から来られている方に配布しても、次の日に丹波に行くとかは無理な話で、恐らくは会場に来られた京阪神の方が狙いで、また来てくださいというような誘客の仕方になるのかと思います。ですので、万博のコンセプトはSDGsかもしれませんが、ターゲットを絞り過ぎて限定的にPRするより、丹波市が良いところもどンドンPRしていく考えでやっていった方が良いのではと思います。

もう一点、前回の会議の際に話が出た県民局で実施した事業の件ですが、平成25年、26年に事業をやっています。周遊バスツアーやタクシーによる周遊ツアーを試験運行する事業者を公募して補助事業として実施しました。この事業は、丹波篠山市を含む丹波地域で実施したのですが、周遊バス事業の旅行代金を抑えたこともあり、参加者も非常に多かったようです。一方、タクシーを利用した周遊ツアーはあまり良い結果が出ませんでした。ツアー料金を抑えても、最寄り駅までのJR運賃や食事代等は自己負担でしたので、結局割高になってしまうことも要因の一つであると考えています。

委員：高校生の活用というところで、丹波市の高校生は真面目で行動力がある子が揃っているので、モンブランの事業といい先生や生徒がやる気があると思う。TAMBAミュージアムやってみようというのも有りじゃないかと思えます。

田辺会長：丹波の高等学校は。

委員：柏原と氷上と氷上西です。

田辺会長：3校ですか。例えば高校の中に地歴部のようなもの地理歴史。例えば神戸の兵庫高校はまちづくりに参加している。区役所と組んでやっている。学校のクラブ活動を通じてやっている。御影高校はキノコの研究をやっていて、大きな成果を上げているので、言われたように学校、積極的にできるというのは高校ですかね。それもいいかもしれません。丹波新聞さんが高校生に町おこしのプランを募集するとか。

委員：県からでしたらできますかね。県立高校なので市の方が音頭を取るのはかなり無理があると思います。私も議会のプロジェクトをしています、なんでそこに予算を割くんやという意見が出たりするので。

田辺会長：教育委員会はものすごく複雑というものではない。むしろ県民局も後援する。それは丹波新聞がするという、あまり役所を通じない方が良いかと思えます。

委員：モンブランは氷上西の先生は大変だったと言っておられた。

田辺会長：先ほどの県民局の事業報告からすると、やはりタクシーより観光バスの方が効果があったということです、その点もかつての経験を観光課の方でも引継いで頂いてと思います。

事務局：二次交通の確保が難しいということで上げていますが、県民局さんのバス補助は金額がかなり大きいですが、現行の補助要綱について万博期間中だけでも増額できないか検討したいと思います。

委員：観光ツアーでバスを使ってというのがありますが、昨日の城崎温泉のテレビがやっていて、そこに来ているほとんどの人がインバウンドの個人客、個人で来られているということで、ほぼネットで調べて海外からも直接来られる時代なので、紹介するところだけでもしっかりとやれば来てもらえると思います。

田辺会長：他に何かありませんか。

8. 閉会

副会長：これを持ちまして閉会いたします。ありがとうございました。